

2000年8月28日

プラネタリウム各位

(社)日本天文学会 教育理事

愛知教育大学教授 沢 武文

天文教育普及研究会 会長

大阪教育大学教授 横尾武夫

プラネタリウムの国勢調査への回答依頼

拝啓

時下、ますますご清栄のことと、お喜び申し上げます。

平素は、当会の事業にご協力をいただきまして、厚くお礼申し上げます。

さて、このたび私どもは、10月5日に群馬にて開催する日本天文学会秋季年会にて「21世紀のプラネタリウム利用を考える」というテーマの教育フォーラムを行うことになりました。これは、プラネタリウムが天文教育普及に果たす大きな役割について、認識を新たにするを目的としております。

しかしながら、国内に300館あるといわれるプラネタリウムについては、これまで集大成されたものがなく、現況が不明です。そこで、討議における基礎資料とするため、下記の通り緊急に調査を行うことといたしました。

なお、調査結果はフォーラムにて発表するほか、プラネタリウムの研究のために使用させていただきます。また、ご協力いただいた館には、集計結果をインターネット等を通じて配布させていただきます。そのさい、個別の館名が特定されないよう配慮いたします。

お忙しいところ恐縮ですが、何とぞご高配賜わり、ご回答いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

敬具

記

調査内容 : 別紙調査表の通り
調査母体 : (社)日本天文学会、天文教育普及研究会
調査先 : 国内の直径5m以上の常設ドームを持つ全てのプラネタリウム館(約300館)

調査票送付先 : 五島プラネタリウム(同封の封筒をお使い下さい)
締め切り : 9月10日

その他 : 本調査についての質問等は、ご手数でも下記担当者までご連絡ください。

担当者 : 大阪市立科学館 渡部義弥(電話 06-6444-5184 電子メール yoshiya@sci-museum.kita.osaka.jp)
五島プラネタリウム 木村薫(電話 03-3407-7409 電子メール kaoru.k@pep.ne.jp)

以上